槍ヶ岳・穂高岳　（上高地～槍沢～槍ヶ岳～南岳～北穂～奥穂～ジャンダルム～天狗のコル 縦走）　1日目 上高地～槍ヶ岳山荘　2日目 槍ヶ岳～穂高岳山荘　立体図　5/5

獅子鼻～大キレットへ

身を引き締めて、飛弾側ガラ場の急坂をドンドン下って、5分後に一旦底へ着く。直ぐ左へ急下降して信州側を巻き、続いて危険な岩場の間を垂直に下り、あと飛弾側を下って又、危険な急下降の後、ハシゴ2ヶ所をおり更に急下降して大石の上を通って鞍部に着く。
あと10分ヤセ尾根岩稜を登り下りしながら最低鞍部の底におりる。

獅子鼻で

南岳の南端獅子鼻を左に見ながら、飛弾側(右)へ廻り込んで眼下の大キレットへの大下りを見おろす。大ガレで岩ばかりに埋った急傾斜の要場、先行した岩稜に点々と見えるパーテーの赤い服も遅々として進まない。ガリガリのヤセ尾根と北穂へのかきむしったような岩壁群の屹立は、今迄のムードを一変させる。

中岳～南岳

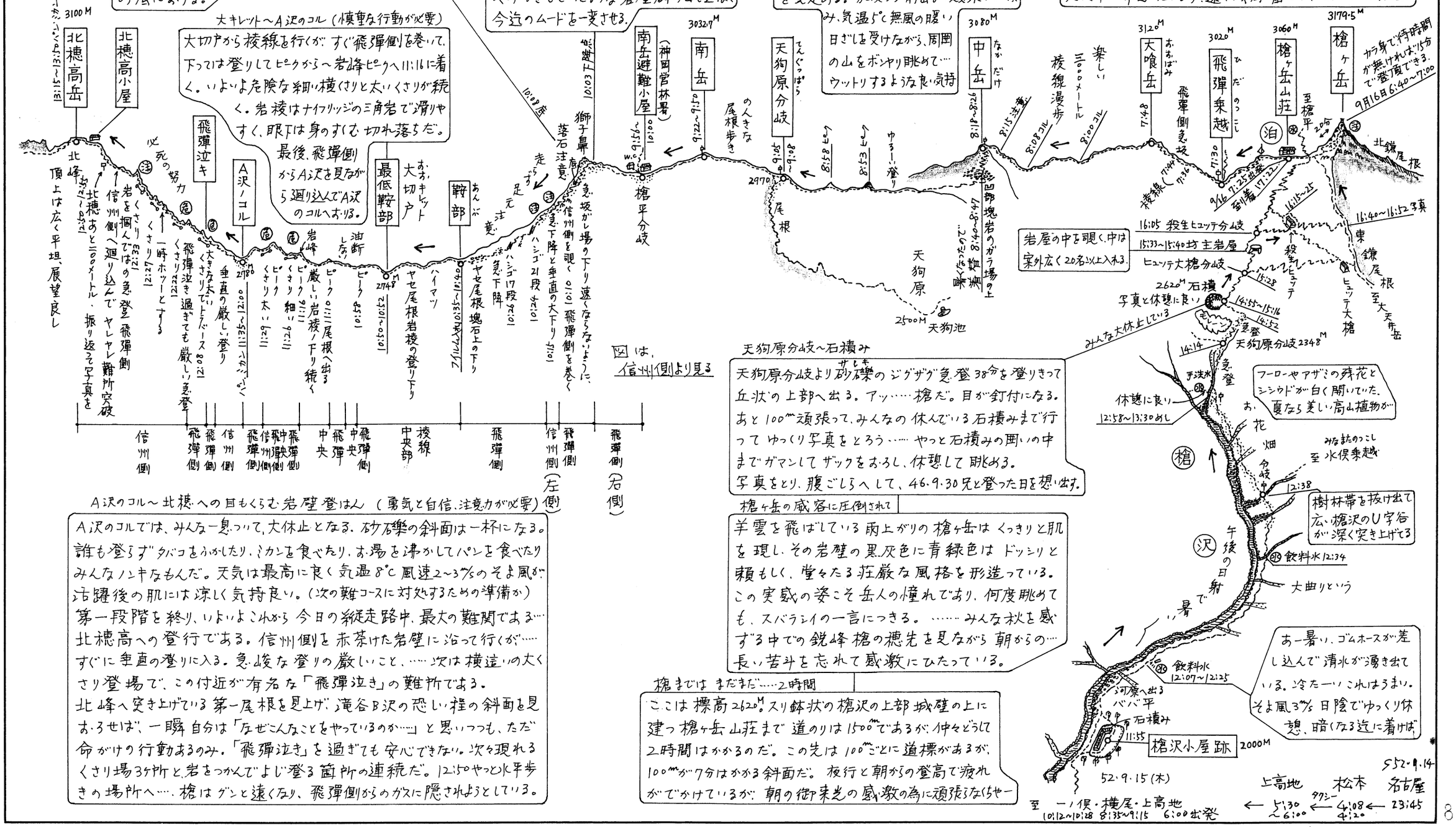
中岳からは小首をかしげて見送ってくれる槍ヶ岳を左に見て、ジグザグの急坂を下って、夏なら雪田や水のある岩塊上の低部へおりる。この先、大きく右に曲り込み南岳への尾根に入る。天狗原氷河公園への分岐から覗き込んで、槍をうつす神秘な天狗池を見定める。分岐から南岳まで頑張って一休み、気温5℃無風の暖い日ざしを受けながら、周囲の山をボンヤリ眺めて…ウットリするような良い気持

槍ヶ岳登頂　9/16　6:40～7:00　2℃無風晴

文政11年(1828)播隆上人槍ヶ岳開山より150年、何十万人の人たちが、この頂上目指して真剣に登ったであろう。私も今回で3度目だ、6年前の初回の頃は山の名など皆目わからなかったが、今では総ての山が名指しできるようになった。先ず形良く飛び込んでくる笠ヶ岳に始り、黒部五郎、ワシバ、雲ノ平越しに薬師、遠くに立山、剣、右に廻って燕～大天井～常念の山なみ、遠く諏訪、富士、八ヶ岳、南アの大展望。

大キレット～A沢のコル（慎重な行動が必要）

大切戸から稜線を行くが、すぐ飛弾側を巻いて、下っては登りしてピークから～岩峰ピークへ11:16に着く。いよいよ危険な細い横ぐりと太いくさりが続く。岩稜はナイフリッジの三角岩で滑りやすく、眼下は身のすくむ切れ落ちだ。
最後、飛弾側からA沢を見ながら廻り込んでA沢のコルへおりる。



図は、信州側より見る

天狗原分岐～石積み

天狗原分岐より砂礫(ザレキ)のジグザグ急登38分を登りきって丘状の上部へ出る。アッ……槍だ。目が釘付になる。あと100m頑張って、みんなの休んでいる石積みまで行ってゆっくり写真をとろう……やっと石積みの陰の中までガマンしてザックをおろし、休憩して眺める。
写真をとり、腹ごしらえして、46.9.30兄と登った日を想い出す。

槍ヶ岳の威容に圧倒されて

羊雲を飛ばしている雨上がりの槍ヶ岳はくっきりと肌を現し、その岩壁の黒灰色に青緑色はドッシリと頼もしく、堂々たる荘厳な風格を形造っている。この実感の姿こそ岳人の憧れであり、何度眺めても、スバラシイの一言につきる。……みんな秋を感ずる中での鋭峰槍の穂先を見ながら朝からの…長い苦斗を忘れて感激にひたっている。

槍まではまだまだ……2時間

ここは標高2620M。スリ鉢状の槍沢の上部城壁の上に建つ槍ヶ岳山荘まで道のりは1500mであるが、仲々どうして2時間はかかるのだ。この先は100mごとに道標があるが、100mが7分はかかる斜面だ。夜行と朝からの登高で疲れがでかけているが、朝の御来光の感激の為に頑張らなくちゃ

A沢のコル～北穂への目もくらむ岩壁登はん（勇気と自信、注意力が必要）

A沢のコルでは、みんな一息ついて、大休止となる。砂礫の斜面は一杯になる。誰も登ってタバコをふかしたり、ミカンを食べたり、お湯を沸かしてパンを食べたりみんなノキなもんだ。天気は最高に良く気温8℃風速2～3mのそよ風が沽躍後の肌には涼しく気持良い。（次の難コースに対処するための準備か）
第一段階を終り、いよいよこれから今日の縦走路中、最大の難関である…北穂高への登行である。信州側を赤茶けた岩壁に沿って行くが……すぐに垂直の登りに入る。急峻な登りの厳しいこと、……次は横這いの太くさり登場で、この付近が有名な「飛弾泣き」の難所である。
北峰へ突き上げている第一尾根を見上げ、滝谷B沢の恐しい程の斜面を見おろせば、一瞬自分は「なぜこんなことをやっているのか……」と思いつつも、ただ命がけの行動あるのみ。「飛弾泣き」を過ぎても安心できない。次々現れるくさり場3ヶ所と岩をつかんでよじ登る箇所の連続だ。12:50やっと水平歩きの場所へ……槍はグンと遠くなり、飛弾側からのガスに隠されようとしている。

奥村光信 52才